

成長障害

- 頭部・胸部・腹部・脊髄の放射線照射や移植前処置として全身放射線照射を受けた場合は、成長障害に注意が必要です
- 原疾患の治療やGVHDに対して使用する副腎皮質ステロイドが身長伸びに影響を及ぼす可能性があります

【成長障害の診断・定義】

同性同年齢の平均身長 $-2SD$ *以下、または平均成長率（1年あたりの身長伸び）の $-1.5SD$ 以下

* $-2SD$ ：同性同年齢の1,000人の身長の統計データで、一番身長が低い人から約23人以内に入る程度であるという目安

【成長障害の原因】

成長障害には、**成長ホルモン分泌不全症**、甲状腺ホルモンや性ホルモンの分泌異常や栄養状態、精神的ストレス、副腎皮質ステロイドの使用等、様々な要因が関係しています

成長障害の原因の一つ・・・

成長ホルモン分泌不全症

成長ホルモンの働き

身長を伸ばす・筋肉を発達させる
代謝を促進させる・心理的健康を維持する

リスク因子：全脳照射 >18 Gy、視床下部下垂体手術など

成長ホルモン分泌刺激試験を行い、下垂体からの成長ホルモン分泌が基準値以下の場合、分泌不全と診断されます

治療が必要と診断された場合は、成長ホルモンを注射で補います（自宅で注射）

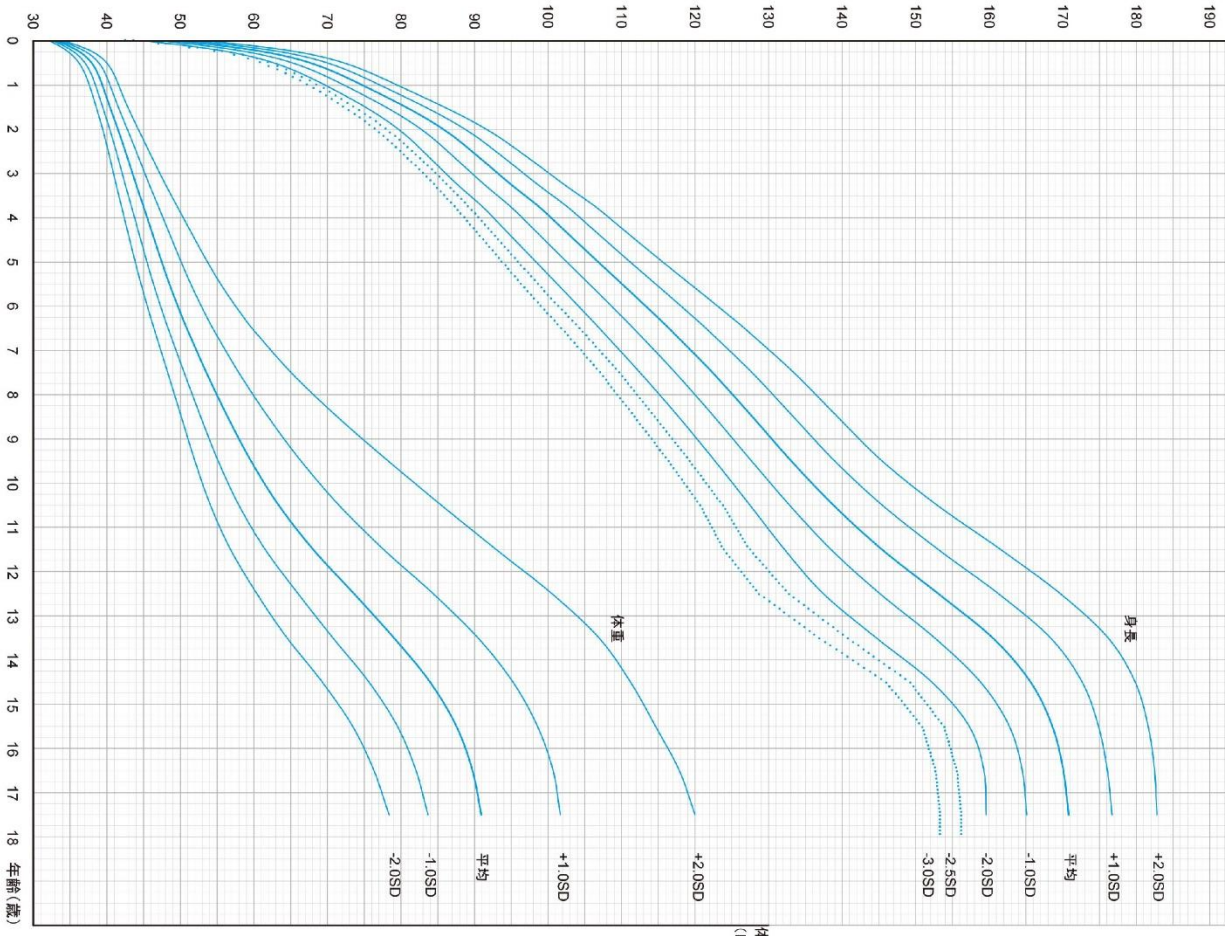
もとの病気が寛解し治療終了となっていれば（免疫抑制剤投与中やGVHDの治療中でも）治療可能です

- 定期的に身長・体重測定や採血、手のレントゲン検査（骨年齢の評価）、二次性徴の診察を受けましょう
- 自宅で成長曲線を作成してみましょう
（日本小児内分泌学会の成長評価用チャート：
http://jspe.umin.jp/medical/chart_dl.html）



横断的標準身長・体重曲線(0-18歳)男子(SD表示)
(2000年度乳幼児身体発育調査・学校保健統計調査)

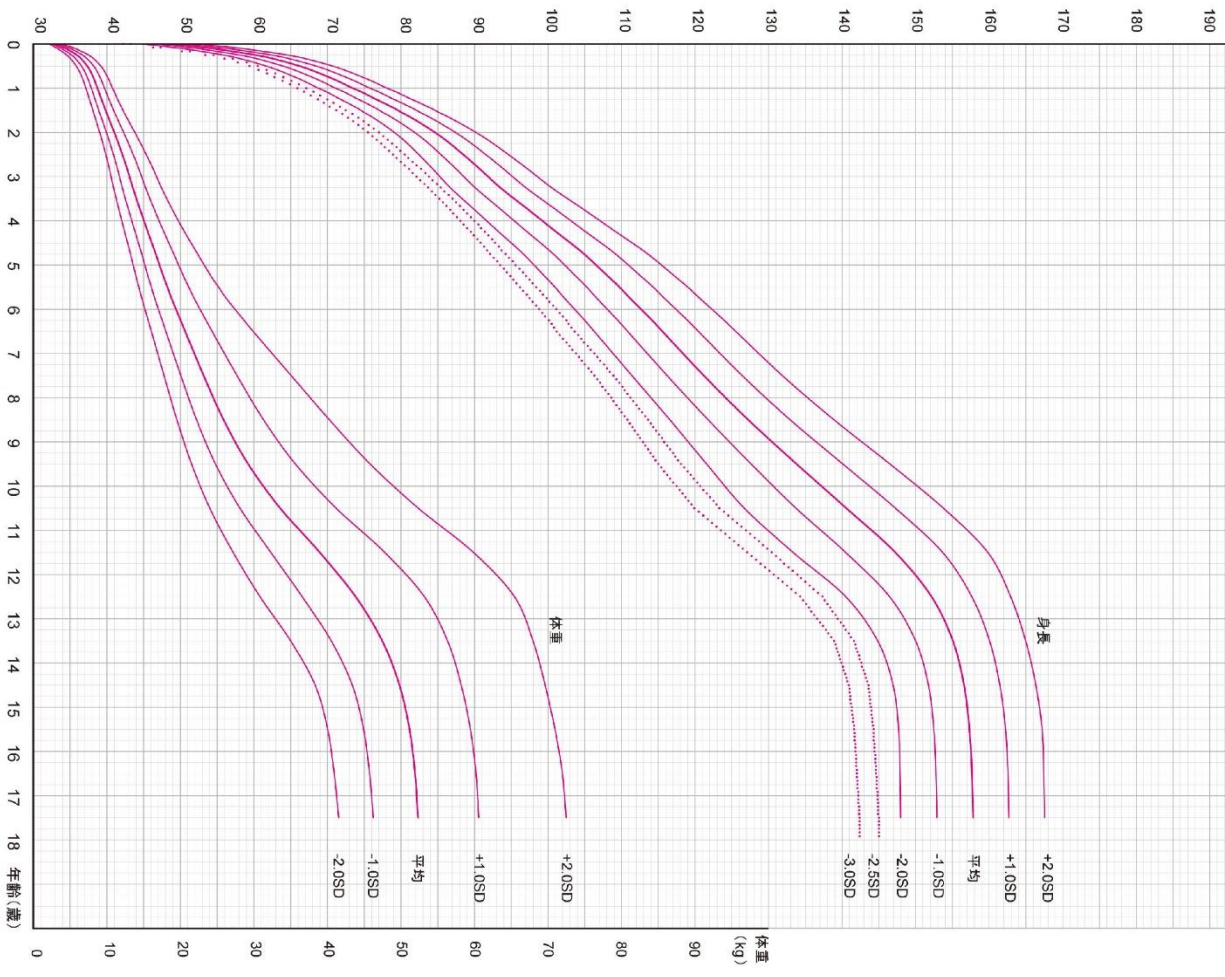
身長 (cm) 本成長曲線は、LMS法を用いて各年齢の分布を正規分布に変換して作成した。そのためSD値はZ値を示す。
-2.5SD, -3.0SDは、小児慢性特定疾病の成率不少児(5歳未満)の成率を示す。



著作権：一般社団法人 日本小児内分泌学会、著者：加藤則子、磯島豪、村田光範 他、Clin Pediatr Endocrinol 25:71-76, 2016

横断的標準身長・体重曲線(0-18歳)女子(SD表示)
(2000年度乳幼児身体発育調査・学校保健統計調査)

身長 (cm) 本成長曲線は、LMS法を用いて各年齢の分布を正規分布に変換して作成した。そのためSD値はZ値を示す。
-2.5SD, -3.0SDは、小児慢性特定疾病の成率不少児(5歳未満)の成率を示す。



著作権：一般社団法人 日本小児内分泌学会、著者：加藤則子、磯島豪、村田光範 他、Clin Pediatr Endocrinol 25:71-76, 2016